

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌

花



NIIGATA UNIVERSITY  
MAGAZINE

— R I K K A —

2014.SPRING [No.8]

 新潟大学

授業紹介・教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介

Enjoy! 学生ライフ

シリーズ・対談

注目される研究報告

Campus Information

新潟大学 新学長就任

特集

研究者の活躍と  
男女共同参画の推進

## いろんなチャレンジから 何か生まれるものがある。

「2月1日に学長になられてから2カ月。今、どんな気持ちでいらっしゃいますか？」  
全ての業務が初めてで、あつという間の2カ月でした。まあ、もつと慣れてくるとさらにいろんなことが見えてくるのかな、とは思いますがね。

「学長として学生たちと接する楽しみもありますね。」  
部活をしている学生の姿ものぞいてみたいし、もちろん、みんながどんな表情で授業を受けているかにも興味はあります。あと、学長になったらぜひやりたいと思っていたのが、昼休みに学生



新潟大学長 高橋 姿 たかはし すがた

昭和25年11月生まれ。昭和51年に新潟大学医学部医学科を卒業。その後、同学部の教授として活躍。専門分野は耳鼻咽喉科・頭頸部外科学。平成22年から医学部長、医歯学系長、大学院医歯学総合研究科長などを歴任し、平成26年2月より新潟大学長。

食堂で食べて学生の様子を見ること。ただ、なかなかその機会が作れないんですよ。だから、もう少ししたら、昔からある第一食堂、そして第二・第三食堂と探検しに行きたいなと笑。そういうことをする中で学生との距離を縮めていきたいですね。

「新潟大学の学生は地域の方と積極的に交流を持っていますが、大学として地域貢献への取り組みをどのようにお考えですか？」  
大学が地域に貢献すると同時に、大学側も地域からいろんなノウハウや考え方を学べると思っています。私自身、いろんな新潟県内の企業の方と付き合いがあるので、彼らは皆、すごく工夫して、いろんなことにチャレンジしているわけ——それはなぜなのかを聞いて、「いくら現状がうまくいっていても、必ず落ちるときは来る。だから絶え間なく研究開発して、商品を考えていかなきゃダメなんです」と。そういう、いろんなチャレンジをして、そこから何か生まれるものがあるっていうのは、まさに新潟大学にも相通じる大事なマインドではないかと思うんです。で、そこにもし学生も絡め

# 平成26年2月1日より新体制に 新潟大学 新学長就任

2月1日より、第15代新潟大学長に高橋 姿前・医学部長が就任。新潟大学の卒業生でもあり、40年近くに渡って新潟大学と共に歩んでこられた高橋新学長に、今の思いをインタビューしました。

## CONTENTS

### 03 新潟大学 新学長就任

### 04 特集 研究者の活躍と 男女共同参画の推進

### 08 授業紹介 - 教育の現場 -

### 09 Enjoy! 学生ライフ

### 10 シリーズ・対談

### 11 注目される研究報告

### 12 Campus Information

## 理事の顔ぶれ

理事(企画・評価担当) / 副学長  
菅原陽心 すがはら ようしん

理事(教育担当) / 副学長  
大浦容子 おおうら ようこ

理事(研究担当) / 副学長  
高橋 均 たかはし ひとし

理事(社会連携・財務担当) / 副学長  
金子双男 かねこ ふたお

理事(病院担当) / 副学長  
鈴木榮一 すずき えいいち

理事(総務・労務担当)  
澤田公和 さわだ きみかず

「その意味では、「ダブルホーム」という新潟大学ならではのシステムを導入されているのも意義深いことですね？」  
ええ。ダブルホームは非常にいい試みだと思っております。高校を出たばかりの学生にとっては、イベントを一緒にやったり、ボランティア的なことに取り組んだり、その活動の中心はもちろん、社会人と話したり接するのはどういうことなのかもその現場で学べるはずで——。大学は、未来の研究者を養う場でありますが、むしろ卒業後は企業などに就職する学生の方が多いわけ

「まさに、新潟大学の理念のとおりですね。」  
そうですね。社会で活躍するための準備をする大事な時期が大学時代であり、我々は「自律と創生」という理念のもと、そういう人材を輩出するという使命を認識して、より一層、新潟大学を発展させていきたいと思っています。

### 『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである「雪の結晶」を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字  
野中浩俊(のなか ひろとし)氏  
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

NEWS! 公式Facebookページを開設しました。

新潟大学 Facebook

本学ホームページからアクセスしてください。

ホームページで発信するニュースのほか、四季折々のキャンパス内の風景など新潟大学をもっと身近に感じていただけるコンテンツを発信していきます。多くの皆さまの「いいね!」をよろしくお願いいたします。

### Cover Photo

理学部の酒井達也教授と、生体制御学講座に所属するみなさんを研究室にて撮影。植物が光の方向に曲がっていく「光屈性」のメカニズムをモデル植物を用いて実験。環境に適応した植物の成長パターン制御機構のモデル研究を行っています。



# 研究者の活躍と男女共同参画の推進

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。また、女性研究者や研究者を目指す女性たちが、男性と同様に研究・勉学に従事できるように、様々な支援活動を推進する「男女共同参画推進室」を設置し、働きやすい環境も提案しています。

## 研究課題 美術作品とヨーロッパ文化との関係を探る



美術品は、信仰者にとっては神そのもの。信仰がかたちとなった



教授の著書。右の「ヨキサマリア人」の壁紙で2010年新潟大学人文科学奨励賞阿部賞を受賞



同じキリスト、マリアの絵や像でも、時代や地域により表現が異なる点も興味深い

人文社会・教育学系 (人文学部)  
細田あや子 教授



細田あや子 教授

Ph.D. 専門は西洋中世美術史。宗教美術を中心に研究。

「超自然的なものをどう可視化させ表現してきたか」がテーマ

「ヨーロッパ中世の文化史に關心があり、美術作品とキリスト教文化との関係を探っています。具体的には、神様や天使、悪魔、天国や地獄などの目に見えないもの、超自然的なものや哲学、歴史もかというところについて考察しています。マリア像やキリストの磔刑像、十字架の像などは、信仰者たちが信仰の内容を表現したものです。同時に彼らはそのものに祈ることで力を得ます。つまり、信仰者にとってそれらは単なる神様の代理ではなく、神様そのものなんです。その心の動き、認知の仕方に興味があります。そのため、美術史のみならず心理学や哲学、歴史も研究対象になってきました。さらに近年では、宗教にまつわるその他の表現方法にも注目。「宗教音楽やダンス、また祈りの言葉も、言葉」といいますが、唱えるだけで神様に

も自分自身にもパワーを与えることができるものですね。超自然的なものに対する祈りの表現であるそれらを、個々の分野としてではなく、全体として、信仰の表れとしてのパフォーマンスというふうに取り扱っていくのではないかと。ですから、ほかの専門の先生にうかがいながら研究を進めていくことが重要になります。細田教授は、新潟大学の教員等のグループが高度な大学教育プログラムの開発や卓越した研究拠点の形成を目指して行う教育・研究活動「コア・ステーション」のひとつ「間主観的感性論研究推進センター」に所属し、共同研究を進めている。「大きな研究テーマとすれば、人間学・死生学」でしょうか。さまざまな専門分野の先生方がいらっしゃるの、それぞれの見地からいろいろなることを教わっていますし、また私の発言に対してコメントをいただくこともとてもありがたいと思っています。

## 新大ならではの研究活動認定制度 コア・ステーション

### What's コア・ステーション制度

高度な大学教育プログラムの開発や卓越した研究拠点の形成を目指して教育・研究活動を行う制度。現在32のグループが、学部、研究科の枠を超えて意欲的に取り組んでいる。

## 学部・研究科といった既存の学内組織にとらわれない研究活動

コア・ステーション「間主観的感性論研究推進センター」(代表:栗原隆教授)に所属し、今回の特集で紹介した細田先生とともに研究を進める鈴木教授。「異なる分野の研究者との共同研究は、有益な意見が多く聞かれ、研究を進める上で役立ちます。特に女性研究者ならではの視点からの発言は、気づかせられる部分があります」と語ってくれた。



鈴木光太郎 教授

附属図書館長。人文社会・教育学系(人文学部)教授。専門は実験心理学。

自然科学系 (理学部)  
酒井達也 教授

## 植物の能力を研究するなかで環境への生物学的貢献を目指す

## 研究課題 植物の環境に適応した成長パターン制御機構を解析

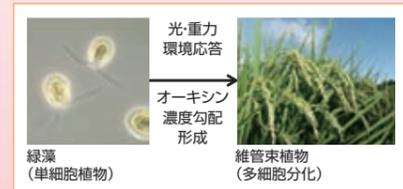
「中学・高校の頃から地球環境や環境破壊の問題に興味があった。それで、大学時代に生物学の勉強ももちろんやってきて、環境問題という点から言っても(同じ生物でも)動物より植物の研究が大事じゃないかと思ったんです。そう語る酒井教授の専門分野は、植物分子遺伝学。特に今、力を入れて研究しているのは、植物がどうやって光の質や強さ、方向を見分けて成長パターンをコントロールしているかという点だ。「植物が光の方向に曲がっていく、光屈性」のメカニズムを、モデル植物で実験しながら、その過程での現象と

酒井達也 教授

博士(理学)。専門は植物分子遺伝学。分子遺伝学的手法による植物科学を研究。



研究室の専用ルームで植物の育成・管理を行う学生たち



図説明:「光屈性研究は環境に適応した植物の成長パターン制御機構のモデル研究」

その、自分の頭の中のこの絵が、自然界にあるんだな!って思える瞬間は、鳥肌が立つと言いか、実にはるんです。もちろん、それをきちんと証明して論文にまでしていく必要があるわけですが、その絵が見えた感覚が気持ちよくて、こうして研究を続けているところへありますよね。物事の興味や探究心こそ研究の源であり、そこで得た手応えが研究への情熱をより加速させる。酒井教授の中では、その熱き思いが十代から今に至るまで色褪せることなく続いているのだ。

## 研究課題 子どもの脳に現れる臨界期に注目し神経回路の形成メカニズムを明らかにする

医歯学系(大学院医歯学総合研究科) 杉山清佳 准教授

## Otx2蛋白質の移動の仕組みを理解し神経疾患治療への貢献を目指す

スポーツや音楽、外国語といった習い事は、大人よりも子どもの方が早く上達することでも分かるように、子どもの脳には個々の体験・経験に応じて神経回路を集中的に作る特別な時期があり、これは「臨界期」と呼ばれている。杉山准教授は、この点に着目し研究を進めている。「臨界期の経験は、視覚の発達にも大きな影響を与えます。臨界期に片目を閉じて経験を妨げると、閉じた目からの情報を多く受け取るように神経回路が作られます。その結果、閉じた目の視力は著しく弱くなる。これは弱視として一般的に知られています。臨界期を過ぎた

大人では治療しても回復しないことが分かっています。このように、子どもの脳に臨界期が現れ、大人の脳に現れない仕組みや、脳の柔軟性を担うOtx2蛋白質が個々の体験・経験に応じて脳内を移動する仕組みについて、研究を行っています。杉山准教授らの研究は今後の医療にどのように関わっていくのか? 「神経回路が作られるメカニズムを明らかにすることで、神経疾患などの治療に貢献することも目指しています。例えば脳梗塞などでダメージを受けた脳にOtx2蛋白質を送ることで、柔軟性が増し治療につながる可能性もあると思います。実際にこ

Otx2蛋白質が個々の体験・経験に応じて脳を移動する仕組み

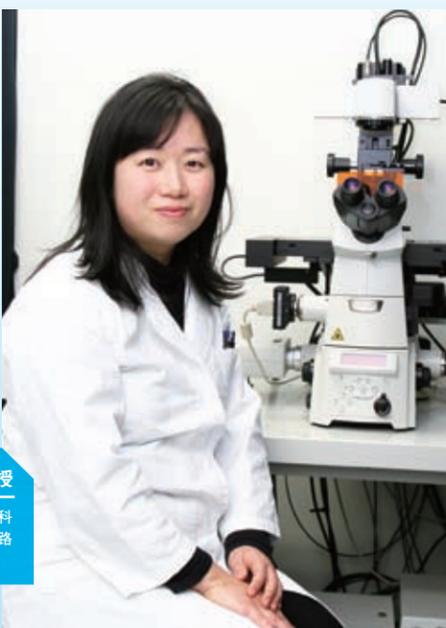


胎生期に脳を作るOtx2は、生後の脳を発達させる働きも持つ



杉山清佳 准教授

博士(医学)。専門は脳科学。幼児の脳の神経回路の形成過程を研究。



# 新潟大学の男女共同参画推進

## What's 男女共同参画推進室？

新潟大学では、女性研究者並びに研究者を目指す女性たちが、男性と共に研究・勉学に従事できるように、様々な支援活動を推進する「男女共同参画推進室」を設置し、働きやすい環境を提案しています。



## 男女共同参画推進室が行なう様々なサポート

### 【男女共同参画関連授業】(学部)

- 「研究者の仕事と生活」全学科目 (集中講義:1単位)
- 「大学生のための役に立つ育児学」全科目 (集中講義:1単位)
- 「ワーク・ライフ・バランス」自然研選択科目 (集中講義:1単位)

### 【メンターによる支援】

「研究者としてのキャリア形成」や「研究とライフイベント(結婚、子育て、介護など)との両立」などについて、先輩研究者(メンター)からアドバイスが受けられるシステムです。

### これまでの効果

妊娠・出産、育児に関するサポートによって、職場復帰し研究を継続できている。  
学生・大学院生からの進路相談に継続的に対応することにより、大学院進学などのキャリアにつながっている。

### 【研究補助者の配置による研究支援】

小学校3年生までのお子さんを養育している研究者に対し、子育て等によって不足する研究時間を補うために研究補助者を配置して両立を支援する制度です。

## 女性研究者の支援活動は新潟大学のさらなる飛躍に繋がる

平成23年4月に男女共同参画推進室を設置。新潟大学では、女性研究者の育成と女性研究者が研究を継続できる環境の整備を進めている。同室長である佐山教授に話を聞いた。

「一般社会と同様に大学でも、男性と女性の間には依然として大きな偏りがあることは事実。少数派である女性研究者にとって、旧来の枠組みや物事を捉える視点では、見過ごされてしまう部分はある。女性が研究を進める上で、彼女たちは発言や希望が通りにくい立場にある。そこで力をつけてあげるために、サポートする場が必要なんです。女性の研究活動を盛り立てたり、新しい展開を目指す上で、思い切った取り組みが必要。その拠点が男女共同参画推進室です」。

佐山教授によれば、同室が進める具体的な取り組みは、大きく分けて二つ。まずは「研究者の子育て支援」である。

「女性が研究者として活躍していく理由に、仕事と家庭の両立の困難さがあります。子育てや介護によって研究との両立が難しい女性研究者に、大学が研究補助者を雇用して両立を支援しています。

新大シッターによる保育も事業の取組のひとつです。もうひとつの事業は後述の育成にも成果を上げる「メンターによる支援」。メンターとは、女性研究者の仕事や研究力を高め、中長期的なキャリア支援を行う人のこと。「メンターによる支援によって、女性が仕事や研究と生活を両立する上

で、分野を超えてアドバイスを受けることができるようになりました。また、他大学に先駆けて新潟大学の男女共同参画推進室の取組が画期的なのは、当室専属の女性教員が常勤していることだ。「これは何よりの強みであり特徴です。しかも彼女たち自身が、女性、子どもの心身の健康支援をミッションとする保健医療系の教員と、後進をどう育てるかという女性研究者の育成支援をミッションとする自然科学系の教員。やはり問題に取り組み意識レベルが違いますね。これまでの取組の成果として、女性研究者の割合も少しずつですが上昇してきました。これらの成果と試みは新潟大学のさらなる飛躍に繋がるものと考えています」。

**佐山光子 教授**  
男女共同参画推進室 室長。  
医学部保健学科 教授。専門は保健学・看護学。

## ウィッツ 新大Witsによるサイエンス・セミナー



↑女子中高生の理系進路選択の支援としても成果をあげている

## What's サイエンス・セミナー

サイエンス・セミナーは、大学院生が中学生へ自分の研究やこれまでの進路を紹介する出前授業です。年間約30件のべ3000人の中学生に対して、大学での模擬講義や学校での出前授業を行っています。

### 受講した生徒の声

進路についての話がとても参考になりました。

研究のことをすごく楽しそうに話してくれたので、ワクワクしながら聞きました。

大学はたくさんの夢が見つけれられる場所だと思ったので行きたくまりました。

## 自分自身も視野を広げるきっかけを得られました

「参加した中高生とは年齢的にも比較的近いので、親近感を感じてもらいながら、理系の面白さを伝えていくことができます。彼らには、専門用語に頼るのではなく、きちんと分かりやすい言葉で整理された発表を行わなければなりません。サイエンス・セミナーを通して、自分自身も視野を広げるきっかけを得られましたし、学会等でのプレゼンテーションの質も上がったと実感しています」



**脳研究所研究機関研究員 (H25年度医歯学総合研究科博士課程修了) 渡辺和泉さん**



**自然科学研究科 博士後期課程3年 桑原理絵さん**

## 自分だけでは気付けない視点に出会うことも

「私自身が中学生の時に、理系に対する苦手意識を持っていたので、サイエンス・セミナーのような試みはとても大切なことだと感じます。授業を通して、理系の面白さをどんどんアピールしたい。また、新大Witsは様々な分野の研究者が集まる場。みなさんとの交流を通して、自分だけでは気付けないような視点に出会うこともあります。科学は改めて面白いと感じ、研究者として刺激になりました」

## 新大シッターの保育支援



↑「新大シッター」第6期生へ認定書の授与式

「新大シッターの保育支援」とは、研究者が土曜日・日曜日・祝日にやむを得ず仕事があり保育が必要な場合に、学長から認定を受けた「新大シッター」がお子さまをお預かりして保育を行う制度です。

この制度は、保育支援だけでなく「新大シッター」の学生が研究者のロールモデルからキャリア意識を形成し、男女共同参画社会に向けた意識を醸成するなど、学生にとっても大変有益な活動です。

平成20年から25年度までに181名が認定を受け、担当教員のサポートのもと、安全で楽しい保育を行っています。

## What's 新大シッター？

新大シッターは、全学科目(個性化科目)「大学生のための役に立つ育児学」(1単位)の受講が必修となっています。受講者の中から新大シッター希望者のみ、10月に「保育の基本技術と衛生管理」の演習、その後、新潟市の一時預かり保育施設で「保育研修」を行い、学長から認定証が授与されます。



↑新大シッター保育の様子



**教育学部4年 齊藤 奏さん**  
「昨年は10回以上シッターとして子どもたちに接しました。子どもの要望を汲む空間づくりを大切に、いろいろな場面に気を配っています」



**農学部2年 後藤慶太郎さん**  
「保育に携わることで子どもに対する親の愛情が良くわかりました。自分の親へも育ててきてくれたことへ感謝する気持ちで一杯です」

私たちも新大シッターです！

学生にとっては、部活に代表される課外活動も大切な青春の1ページですよ! このコーナーでは、そんな部活動を中心とした新大生の活躍をお届けします!!

CIRCLE PICK UP! 運動系

大学から始めた人も多数  
**フィールドホッケー部**



トリプルや、チーム一丸のプレイで相手を抜けば、まさに快感!

↑男子はもちろん、女子のチームも。ただ、今はちょっと人数が少なめらしく、「興味のある学生はぜひ!」とアピール

**チーム一丸となって勝利を目指す熱き集団**

「ホッケーは1チーム11人で戦い、スピードも技術も要求される競技。新潟大学のフィールドホッケー部は、以前からの経験者もいる一方、大学からホッケーを始めたというメンバーも多いんですよ。ただ、そういう成り立ちのチームでも、関東や関西の1部リーグに所属する強豪チームに勝てる!! っていうのを証明するのが目標です。春の大学王座決定戦、そして秋のインカレなど、主要大会での勝利を目指して練習に励んでいます!」



部長 石橋大我さん(経済学部4年)

CIRCLE PICK UP! 文化系

日本の伝統音楽を奏でる  
**邦楽部**



週3回の練習に加え強化合宿も行っていきます

↑現在、部員は18名。アットホームな雰囲気です

**独特の音色と余韻が邦楽の醍醐味**

「邦楽は日本の伝統的な音楽。箏や十七弦、三味線、尺八といった楽器を演奏しています。演奏する曲は幅広く、江戸時代に作られた古典曲を中心に、ときにはテンポの速い現代曲を演奏することもあります。邦楽の魅力は何と言っても独特の音色と余韻。これは日本人ならではの感覚だと思います。目標は毎年11月に行われる定期演奏会。これは1年間の活動の集大成なので、部員一丸となって練習を重ねていきます」

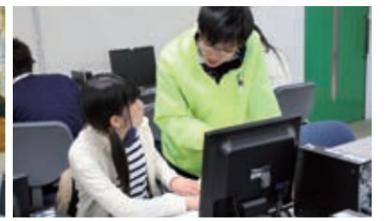


部長 吉岡万穂さん(農学部3年)

CAMPUS TOPICS!

**五十嵐キャンパスで在学生在が新生サポートを実施しました**

「ガイダンスのある場所や授業のある教室、申請書類を提出する窓口がわからない」「WEB履修登録がうまくできない」など、年度当初の新生は、キャンパス内で様々なサポートを必要としています。そんな新生が早くキャンパスに馴染めるよう、黄色のスタッフジャンパーを着た在生たちが心強い応援団として、4月初旬から中旬にかけて新生のサポートを行いました。



**第55回黎明祭を開催しました**

4月12日(土)に学生が主催する第55回黎明祭が開催されました。黎明祭は、新生を歓迎するとともに、サークル紹介の場として、黎明祭実行委員(学友会役員)が中心となり毎年4月に開催しています。当日は、音楽・ダンスサークルによるパフォーマンスや、各サークルの紹介、お笑いライブ、豚汁の無料配布などが催され、新生は先輩学生と触れ合いながら有意義なひとときを過ごしていました。



↑競技ダンス部によるパフォーマンス

↑サークル紹介ブースで先輩学生との交流

今回は退職を迎えた教授の「最終講義」取材

**授業紹介** — 教育の現場 —

特別編

第8回 災害・復興科学研究所

退職する教授の最後の講義に出席したことはありますか? 砂防学を専門とする丸井教授の最終講義が中央図書館ライブラリーホールで行われました。



**最終講義「天変地異と人為の狭間 ~土砂災害軽減のための営為」**

土砂災害軽減のための方策を考へることが災害研究者としての使命と考へる丸井教授の最終講義は、集大成と呼ぶにふさわしい内容。「土砂災害の中でも極めて規模の大きな異常現象が時折発生します。そのような場合には「天変地異」という形容が相応しい。一般論として、小規模な土砂災害に対する対応策は今日では基本的に確立しているといつてよいと考えられます。しかしながら、「天変地異」に相当する現象に対応することは極めて困難であり、人為の限界を感じます。自身がこれまで経験してきた様々な災害調査や解析結果等を振り返りながら、様々な形態の代表的な土砂災害の実態を紹介し、そのような災害に如何に対応すべきかという点を中心に論じられた。

人為を超えた「天変地異」に対応し続けた四半世紀

このように、土砂災害の最前線で過ごした丸井教授の研究生活とはどのようなものだったのだろうか? 「小職の在職期間中、新潟地域で様々な災害が発生しましたが、何と云っても2004年は特別の年。7月には新潟・福島豪雨災害があり、その年10月には中越地震が発生しました。中越地震では甚大な土砂災害が発生したので、調査・研究とその後の対応に没頭しました。その他には、2006年に防災に関する国際学会を新潟大学に招致し、開催したことも思い出。また、この5年間はクアアアの土砂・洪水災害の軽減のための国際共同研究を代表者として企画し、実施できたことで充実した日々を送ることができました。」



身について、新潟大学へのエールで結んでいただいた。「定年退職後は、現役時代よりは自由な時間が確保できると思いますので、災害の軽減に関わる本質的な問題について改めて考察したいと思っています。学生諸君や若手研究者には可能な限り大きな視野を持って、その中で自分の勉強や研究の意味を恒常的に考えながら、大学での日常を過ごされることを期待します。」



丸井英明 教授

Profile  
災害・復興科学研究所長。土砂災害を防ぐための施策を考察する。また日本地すべり学会・会長も務めた。



恩師と語らう懐かしの時代  
**シリーズ・対談**  
 恩師：**丸山武男 名誉教授**  
 元・工学部附属工学力教育センター初代センター長  
 教え子：**斎藤宏之さん**  
**皆川徳一さん 宮越勝久さん**

それぞれがどんなに偉くなっても、僕らの関係は変わらない

——皆さんは同じ研究室で学んだ仲間とお聞きしました。先生、当時はどんな雰囲気の研究室だったんでしょうか？  
**丸山** 彼らの学生時代はまだ小学科小講座制で、4講座7研究室だったんです。私はその頃助教だったんです。私はずいぶん来てくれた斎藤くんは、同じ講座に修士として居て。皆川くんも宮越くんは、学部生で——まあ、当時何を研究したかとか、彼らも憶えてないでしょうが(笑)。  
**斎藤** 先生、そこ、一番重要なところですか(笑)！  
**宮越** 実際、家で論文を探したけど、どこにあるか分からなくてねえ(苦笑)。

**皆川** でも、丸山先生からこういう実験をしなさいと言われて、一番大変だったのが、放電管を真空にするやつ！  
**丸山** そうそう、蛍光灯のような形の放電管を真空にして、その中にガスを入れて様々な実験をするのだけど、真空状態にするのに、週間もかかってね。測定自体は2〜3時間で終わるけどさ。  
**皆川** 我々も、言われたから実験するものの、実験の目的をあまり理解してなくて……前に似たような実験をした人の論文を読んで、「ああ、こういうことだったのね」と初めて分かるような(笑)。  
**丸山** 先に論文を読むように言ったのに(笑)。でもね、やっぱり、「人の絆を作る」と言うか、大学では、研究も大事だけど、社会勉強になるようなことをしてもらった方が絶対いいと思っていたから、言ってみれば、ほとんど遊んでたような気がするね。その遊びの中から学んでもらったことが多いんじゃないかな。特に、今日集まってくれたみんなの学年は、まとまりがすごくよくて。研究室の歌があるっていうのは、後にも先にもこの学年だけですからね。

——研究室の歌、ですか？  
**丸山** そう。皆川くんが作曲して。アレ、今、歌える？  
**皆川** ええ。じゃあ、ちょっと歌ってみようか。せえの〜!!  
**宮越** 当時はホント、研究室に

(全員が一緒に歌い出す)  
 〇「新大に 光り輝く 研究室 丸山研は僕らの誇り プラスマプラスマプラスマプラスマ 放電管 プレインとネットワークでなければ入れない 丸山先生リーダーの 推して知るべし 僕らの丸山研」  
 ——素晴らしい！ 今、皆さんで歌われていた場面は、ぜひ動画で撮りたかったです(笑)。  
**皆川** (笑) まあ、仲間の結婚式は、これを歌うのが定番でしたよね。  
**宮越** ホント、これだけはちゃんと憶えているね(笑)。  
**斎藤** とにかく、あの当時は難しいことは何も考えずに、楽しくやりました。で、先生は、今も昔も全然変わらないうえ、明るいし、声も大きいし、元気がいいとか言ったら失礼ですけど(笑)、当時からそうでしたよね。それもまた先生のお人柄でしょうし……きつと、先生ご自身もそういう人柄を育てていらしたんだと思うんです。  
**丸山** とにかく家族みたいな付き合いをしてましたからね。これが私学だと、一研究室で何十人も学生がいたりするじゃないですか？ ところが私らの研究室の場合、4年生は大体5〜6人、修士が居ても2人くらいで、そんなに多くはないっていうアットホームさがあって。それも(新潟大学の)いい部分と言えるかな。

**丸山武男 名誉教授**  
 新潟大学を卒業後、本学の教員として、昭和40年〜平成20年まで教壇に立つ。気体放電の物理現象に関する研究が専門。

**斎藤宏之さん**  
 昭和54年3月 新潟大学工学部電子工学科卒。現在は、富士ゼロックス株式会社・CS品質本部 品質保証部 品質戦略企画主席。

**宮越勝久さん**  
 昭和56年3月 新潟大学工学部電子工学科卒。現在は、ウエノテック株式会社・営業技術部 電装グループ 次長。

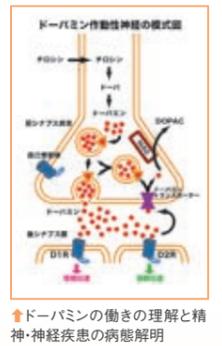
**皆川徳一さん**  
 昭和56年3月 新潟大学工学部電子工学科卒。現在は、CoCoイメージ株式会社・R&D開発部門 第1事業部 / 取締役兼事業部長。

行くのが楽しかったですから。  
**皆川** 授業は出なくても研究室には顔を出して(笑)……。  
**宮越** 根城(ねじろ)みたいになつてたのも仕方ないという(笑)。  
**皆川** という意味では、我々はメンバーに恵まれましたよね。いまだにこうして付きあえていくわけじゃないですか？  
 本当に素晴らしい大学生活だったと思いますよ。  
**丸山** そうだね。ずっとこうして付きあえるっていうのは、いいことだよ。しかも、それぞれの会社で、どんなに偉くなっても、関係は変わらない。昔風に言うると、同じ釜の飯を食った間柄ですから。  
**斎藤** 学生時代の付き合いって利害関係がないから、変に気にすることがなくて。  
**宮越** 確かに、会えば、歳とか関係なく、あの当時のままの感じで話せるからね。



新潟大学の特色ある  
 研究トピックを紹介

注目される研究報告



発生生殖工学技術を駆使。最新の設備が揃う

ドーパミンの働きと精神・神経疾患の病態解明

豚、猿も飼育し研究を行うことができるようになりました。その結果、ひとつの施設内で段階的な研究が行えるようになったわけです。また、脳研究所と医学部という近い分野の研究者が周囲に大勢いらっしゃることで、研究の進め方について普段から詳しく相談することができるのも大きなメリットだと思います。



ミンがなくなると起こる病気として知られていますが、その仕組みにはまだまだ分からない部分が多く、治療にも課題が多くあります。私たちは、遺伝子操作技術を用いてモデル動物を作ること、遺伝子の働きと動物の振る舞いを関連付けて理解する研究を行っています。

そして笹岡教授の研究を大きく推進させるのが、改修されたばかりの新潟大学脳研究所の動物実験施設。この施設は、多くの学部の人々が利用できる。ここでは最先端の方法で遺伝子改変マウスを作ることができ、それらの動物について高度な解析が行える。「人の脳の働きや疾患を研究する上では、人に近い動物を使う方がふさわしい結果が得られます。改修後、動物の収容数が増えたことに加え、ラット、モルモット、うさぎ、犬、

研究課題

受容体に着目したドーパミンの働きの解明とパーキンソン病の治療法開発の基礎研究

脳研究所 生命科学リソース研究センター(動物資源開発研究分野) 笹岡俊邦 教授

遺伝子の働きと動物の振る舞いを関連付けて理解する



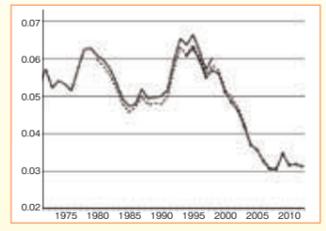
ともに研究を進める動物実験施設のスタッフたち

「人間の心というものが物質で理解できるということに、とても驚いた学生時代の経験が、私の研究活動の原点です」。笹岡教授は、運動の調節、情動、神経疾患、精神疾患に関連する神経伝達物質ドーパミンが脳内で働く受容体に着目。ドーパミンの働きの解明と、その欠乏により発生するパーキンソン病の病態解明、治療法開発の基礎研究を進めている。「パーキンソン病の主な病状は手足の震えや動作の減少。ドーパ

研究課題

インフラの高齢化を踏まえた公共投資の在り方

人文社会・教育科学系(経済学部) 中東雅樹 准教授



↑重版となった「英語で学ぶ日本経済」など、中東先生が執筆に携わった本の数々

インフラが高齢化(老朽化)するなか、広い視点で公共投資の意義を研究中  
 中東准教授の研究テーマは、公共投資の経済効果。興味を持ったきっかけは「2000年頃、クマシカ通らない道路の話が注目されたじゃないですか？ そのときに社会全体で、インフラはどれくらい必要なのか？」が問題になり「おもしろそう！ このテーマに時代の波が来ているな」と思ったことだとか。「……だけど、その波も長くなかった(苦笑)。その後(小泉構造改革などで)公共投資の削減が始まり、その後ずっと下がってきています。しかも、その下がり方は、激減(〜)」。そんな傾向が続くなか、去年、笹子トンネルの天



↑ゼミ生からの寄せ書きやプレゼントが机に。その人柄が学生に愛されていることを感じる

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

インフラの中でサービスを享受することになるので……。だから、我々現役世代が今から、将来的にどうするべきか考えていくべきだと思って取り組んでいます。言わば社会全体をマクロな視点で研究する中東准教授。「物事って、とかく問題を先送りし、気づいた時にはもう大変、ってことになりがち。でも、そうはならないよう、今、公共投資を研究する意味は大いにあると思っていますよ」。

# Campus Information

地域に密着しながらさまざまな活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります!



高橋学長から賞状を授与される城准教授



特別講演を行う齋藤教授

## 平成25年度 学長教育賞授与式・ 学習教育研究フォーラムを開催

今年で8回目となる学長教育賞授与式・学習教育研究フォーラムを3月10日に五十嵐キャンパスの総合教育研究棟で開催しました。

はじめに、効果的な教授方法の実施、教授法の改善及び学生の学習支援について顕著な功績があった教員を表彰する学長教育賞の授与式が行われた後、受賞者である医歯学系(大学院医歯学総合研究科(医))の齋藤昭彦教授及び自然科学系(農学部)の城 斗志夫准教授から特別講演として、それぞれの教授方法の概要及び取組の紹介が行われました。

引き続き、授業改善プロジェクト報告として、特色ある取組を行っている6名の教員からの実践報告が行われました。その後のパネルディスカッションでは、「大学教育におけるアクティブ・ラーニングの可能性」と題し、話題提供及び事例報告が行われ、参加者との活発な討論もあり、本学における教育方法の改善に向けた意気込みの高さを感じさせる機会となりました。

## 本学卒業生がソチ五輪、 ソチパラリンピックに出場しました!

2月8日に行われたソチ冬季オリンピックスキー・フリースタイル女子モーグルに、本学人文学部卒業生の星野純子選手(チームリステル)が出場しました。残念ながら予選敗退となってしまいましたが、今後の飛躍を感じさせる滑りをみせてくれました。

また、3月7日から16日まで開催されたソチ冬季パラリンピックに、本学工学部卒業生の出来島桃子選手(新発田市役所 所属)が出場しました。出来島選手のパラリンピック出場は、2006年のトリノ、2010年のバンクーバーに続き、今回で3回



4月に本学を訪れた星野選手と高橋学長 市役所の壮行会で挨拶する出来島選手



目です。バイアスロンやクロスカントリーリレーで4つの入賞を果たしました。両選手の今後の活躍を期待しています。皆さまからの温かいご声援をよろしくお願いします!

## 新潟大学基金のお知らせ ぜひご協力ください

学生の修学支援、国際交流活動等に活用しています。

※税法上の優遇が受けられます

● 基金ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

新潟大学基金事務局

電話:025-262-5651(受付時間 平日9:00~17:00)

FAX:025-262-6679

E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp



## 「新潟大学カード」入会受付中!

VISA付きの国際カード「新潟大学カード」。

卒業生と母校の絆を、いつもポケットに!

● 新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話:025-262-7891

(受付時間 平日10:00~15:00)

E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



新潟大学  
季刊広報誌

六花

RIKKA  
2014.Spring No.8

発行/平成26年5月 編集/新潟大学広報センター  
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)

電話/025-262-7000 FAX/025-262-6539

Home Page <http://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail [rikka@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:rikka@adm.niigata-u.ac.jp)

新潟大学 Facebook <https://www.facebook.com/niigata.univ>

## 編集後記

新入生を迎えて早1ヶ月半。キャンパスは元気な学生の声で溢れています。広場で歌い、仲間と談笑し、図書館で勉強し、その姿は様々ですが、こうした光景を見ていると改めて大学の主人公は「学生」だと感じます。これから新入生たちが「六花」の誌面を飾る機会がどんどん増えてくると思いますので、皆様からの学生に向けた熱いエールをよろしくお願いします。(Y)